

## 平成27年度第1回野菜需給・価格情報委員会の意見概要

1 日時  
平成27年7月22日（水）13:30～15:30

2 場所  
独立行政法人農畜産業振興機構 南館1階会議室

### 3 概要

「平成27年産春野菜の需給・価格の実績」（資料1）の説明の後、夏秋野菜の需給・価格の見通しについて、7月14日開催の消費分科会で出された意見等を踏まえ意見交換を行った。その概要を藤島座長が取りまとめ、各委員に了承を得た上で、7月31日開催の「平成27年度第1回野菜需給協議会」に報告することとなった。

夏秋野菜の需給・価格の見通しに関する各委員からの意見は以下のとおり。

#### (1) 夏秋キャベツ（7～10月）

##### ① 供給見通し

- 作付面積は、群馬県及び長野県は微減、北海道は前年並みと見込まれている。
- 生育状況は、群馬県においては、播種作業が2月上旬より順調に開始され、生育はおおむね順調に推移している。長野県においては、5月中旬までは干ばつにより小玉傾向であったが、6月以降の降雨で回復し、生育はおおむね順調に推移している。北海道においては、地区によっては干ばつの影響で遅れがでているが、全体的には順調に生育している。
- 出荷量は、群馬県においては、干ばつの影響などから8月は前年を下回ると見込まれ、9月以降は、安定した出荷となって前年並みと見込まれている。

##### ② 需要・価格見通し

- 価格は、8月は干ばつ等の影響から入荷量が減少して前年を上回り、9月は低温・長雨等の影響に加え、加工・業務用の需要も堅調で高値となった前年を下回り、10月は天候が回復し順調な出荷となり平年を下回った前年並みと見込まれている。
- 加工・業務用は、カット野菜の需要が強く、事業者にとって必要量を契約できない産地もある。新規の加工業者は契約しづらいことや、カット野菜の生鮮小売りへの供給確保の影響から、原材料の市場調達が進むことも考えられ、その場合には市場価格が上昇する可能性もある。

#### (2) 夏だいこん（7～9月）

##### ① 供給見通し

- 作付面積は、北海道及び岐阜県は前年並み、青森県は微減と見込まれている。
- 生育状況は、北海道においては、播種作業が順調に進み地区によっては低温・干ばつの影響でやや遅れがでているが、全体的には順調に生育している。青森県においては、春まき及び初夏まきともに順調に生育している。岐阜県においては、播種は残雪の影響でやや遅れたが、その後は順調に生育している。
- 出荷量は、北海道や青森県においては、6月中旬から7月上旬の天候不順による干ばつなどの影響も懸念されるものの、期間を通じては安定した出荷が見込まれ、ほぼ前年並みと見込まれている。

② 需要・価格見通し

- 価格は、期間を通して安定した出荷が見込まれることから、順調な入荷量があった前年並みと見込まれている。
- 加工・業務用は、外食などから切りだいこんの注文が年々増加している。また、加工用需要が多くなってきているものの、今年は、加工向け産地の作付面積の減少や干ばつ等により生育が遅れている等から、産地において契約が進んでいない業者も一部にみられる。

(3) たまねぎ（7～10月）

① 供給見通し

- 作付面積は、北海道及び兵庫県は前年並み、佐賀県は微減と見込まれている。
- 生育状況は、北海道の定植は平年に比べ早く終了し、その後、干ばつ傾向により生育が停滞したが、6月の降雨により回復し、生育は順調に推移している。佐賀県においては、定植が12月の曇天の影響で遅れ、肥大期の干ばつにより小玉傾向が見込まれている。兵庫県においては、5月中旬までの干ばつにより小玉傾向となっている。
- 出荷量は、産地の切り替え時期となる中で、佐賀県産が小玉傾向の影響で早めの切り上げとなり、主力の北海道産が出始めて出荷量が見込まれるものの、8月は前年を下回ると見込まれている。北海道産においては9月以降、生育順調で本格的な出荷時期を迎え、9月は前年並み、10月は前年を上回ると見込まれている。

② 需要・価格見通し

- 価格は、8月は佐賀県産が大幅に少なくなることから前年を上回り、9月は北海道産が順調であることから前年並み、10月は安かった前年を上回ると見込まれている。
- 加工・業務用は、中国産の残留農薬問題や作付面積の減少、国内価格の上昇もあり、北海道産の生育が順調であれば、国産への切り替えニーズがあるものの、自ら剥き玉に加工できる業者は限られていることから、中国産のニーズは、引き続き堅調と考えられる。

(4) 秋にんじん（8～10月）

① 供給見通し

- 作付面積は、北海道においてホクレンが微増、北海道青果商業協同組合がやや減少、青森県は微減と見込まれている。
- 生育状況は、北海道の播種作業は順調に進んだが、その後、干ばつの影響は多少あるが、全体的には順調に生育している。青森県においては、春まきの播種作業は順調に終了したが、一部干ばつの影響で発芽不良のほ場がみられるものの大きな影響はなく順調に推移している。夏まきは、雨の影響で播種作業が遅れた地区もあるが順調に生育している。
- 出荷量は、8月は一部地域での天候不順により出荷の谷間ができる可能性があることから前年を下回り、9月以降は、順調な出荷が見込まれることから、ほぼ前年並みと見込まれている。

② 需要・価格見通し

- 価格は、8月は干ばつの影響から出荷の谷間ができる可能性があることから、安かった前年を上回り、9月は北海道産が順調であることから前年並み、10月はかなり安かった前年を上回ると見込まれている。
- 加工・業務用は、中国産が東南アジアからの引き合いが強く、価格が上昇しているものの、国内産は干ばつ等で細かいサイズのものが多く、加工・業務用では使いづらい状況にあるが、北海道産の作柄次第では中国産にシフトする可能性がある。

(5) 夏はくさい（7～9月）

① 供給見通し

- 作付面積は、長野県は微増、北海道はわずかに減少、群馬県はやや増加と見込まれている。
- 生育状況は、長野県においては、6月までの長雨で一部出荷ができないほ場があったが、全体では順調に生育している。北海道においては、干ばつの影響で1週間程度遅れている。群馬県においては、順調に生育している。
- 出荷量は、主産地の長野県においては、6月までの長雨で一部出荷できないほ場もあったが、生育も回復して順調な出荷となることから、期間を通じて前年を上回ると見込まれている。

② 需要・価格見通し

- 価格は、順調な出荷が見込まれることから、天候不順で肥大不足等の影響から高かった前年を下回ると見込まれている。
- 加工・業務用は、契約単価は上がっているものの契約量を増やしており、その後は、在庫量も十分確保されている状態である。また、秋以降の本格的な需要期を迎えるまでに契約率を上げていく業者が多くなっている。

(6) 夏秋レタス（6～10月）

① 供給見通し

- 作付面積は、長野県は微増、群馬県及び茨城県は前年並みと見込まれている。
- 生育状況は、長野県においては、6月下旬の低温から生育が若干遅れており、7月以降の天候不順でほ場によりバラツキがみられる。群馬県においては、ほ場により高温や干ばつの影響がみられるものの、全体では順調に生育している。茨城県においては、8月上旬に播種が開始されると見込まれている。
- 出荷量は、8月は降雨、高温のため病気が発生していることもあり前年を下回ると見込まれている。9月は低温等の影響で少なかった前年を上回り、10月は平年を大幅に上回った前年を下回ると見込まれている。

② 需要・価格見通し

- 価格は、8月は入荷が少なく高かった前年並み、9月は長雨等の影響で高かった前年を下回り、10月は生育が回復し入荷量が多く安かった前年を上回ると見込まれている。
- 加工・業務用は、外食チェーンを中心に、国産野菜を使用したサラダにシフトする動きがあることから、需要量が増加する可能性があるが、価格条件の面から米国産等を確保する業者もできる可能性がある。